

平成29年度第1回瑞浪市総合教育会議議事概要

日時 平成30年2月19日（月）9時26分開会
場所 瑞浪市役所4階 全員協議会室

出席者（構成員）

市長	水野光二
教育長	平林道博
教育長職務代理者	山田幸男
教育委員	柴田洋子
教育委員	加藤博之
教育委員	五嶋久年

（事務局）

事務局長	奥村勝彦
事務局次長	工藤仁士
教育総務課長	酒井浩二
企画政策課長	梅村修司
教育総務課長補佐	鈴木友恵
教育総務課総務係	丸山佳子

傍聴者 なし

報道関係者 なし

議事日程

- 1 市長あいさつ
- 2 教育長あいさつ
- 3 協議・調整事項
 - （1）瑞浪市のいじめの現状と対策について
 - （2）瑞浪市教職員の働き方改革プランについて
 - （3）市内小学校の教育環境の整備について
- 4 その他

○事務局長

ただいまから平成29年度第1回瑞浪市総合教育会議を開催する。

1 市長あいさつ

○市長

早朝から、瑞浪市総合教育会議に出席いただき、感謝している。

今年に入ってから様々な出来事があった。教育委員の皆さまのおかげもあり、本市の子ども達は、立派に成長していると感じる場面がたくさんあった。成人式には、今年も大変感動した。新成人が中心となり、約半年にわたり準備を重ね、自分達で企画し、当日演技をした。若者らしい温かな成人式で、成人式大賞を受賞した年に勝るとも劣らぬ、素晴らしい式であった。先生方がしっかりとフォローしてくださった賜物であろう。

また、昨日の青少年育成市民会議では、各モデル地区の発表を聞いた。会議後、瑞浪高校の高橋校長が、「素晴らしい市民会議であった。地域の方々が、子ども達のためにこれほどまでに活動しているということに驚き、感動した。これらのつながりの延長線上にある本校においても、教育環境の整備、学校運営に一層力を入れていかなければならないと改めて感じた。」とおっしゃった。高橋校長には、瑞浪高校をより魅力的な高校にするために様々な活動をしていただいている。今回、瑞浪高校が表彰対象であったことから、たまたま市民会議に出席していらっしかったが、瑞浪市民の熱心な取り組みを知る良い機会であったと喜んでいただけたのではないかと思う。大変有意義な会議であった。

まちづくりや区長会、各種団体における一番の課題は、人材育成である。現在活動してくださっている世代は、ボランティア精神が旺盛で、献身的に活動してくださる方が多い。そのおかげで瑞浪市が成り立っているが、今後、5年後、10年後も同じように熱意ある担い手があるのかと考えると、いささか不安である。幼稚園、小中学校、高校において、瑞浪市に対する誇りや愛着を子どもたちに根付かせるような教育の継続、向上が重要だと考える。

総合教育会議は、教育委員と市長部局との意見交換の場でもある。忌憚のない意見を聞かせていただき、市長部局が行わなくてはならない部分をしっかり受け止めていきたい。また、教育委員には、それぞれの立場から教育環境の現状を分析していただき、適切な指導をいただければありがたい。

教育環境ということでは、中学校の統合を大きな課題として進めている。瑞浪南中学校は、校長をはじめとする全教職員の頑張りにより、2年目も順調に運営されている。瑞浪北中学校については、建設工事は順調に進捗しており、12月までには完成すると確信している。ただ、立派な施設が完成したとしても、問題は中身である。そこに通う生徒達のために、全教職員と保護者がうまく連携していけるよう指導いただくのが教育委員会の大きな役割だと考えている。ぜひ、引き続き指導いただくようお願いする。

(9 : 32)

2 教育長あいさつ

○教育長

瑞浪市総合教育会議の開催にあたり、教育委員会として一言挨拶申し上げる。市長には、瑞浪南中学校の統合、瑞浪北中学校の校舎建築、陶小学校の移転・大規模改修など、教育環境の整備について、また教育委員会の事業について、全面的にバックアップしていただき誠にありがたい。教育委員会は、市長部局から独立した行政機関として、教育に関して責任を持って取り組んでいるが、教育課題は複雑化、多様化していること、また教育環境の向上には費用もかかることから、市長部局の応援なくしては対応できないのが現状である。こうした中、中学校の統合が着々と進み、来年の4月には新しく瑞浪北中学校が開校することを大変喜んでいる。

本日は、市長と率直に意見を交わすことで、教育委員会の思いを知っていただき、また、市長の思いをお聞かせいただくよい機会を得たことを大変嬉しく思っている。ぜひ、充実した会にするよう、教育委員にも活発な意見をお願いする。

(9 : 34)

3 協議・調整事項

○事務局長

これより本日の議事に移る。本日の議長については、瑞浪市総合教育会議設置要綱第4条により、市長が務めることが規定されている。これより、水野市長に進行をお願いする。

○市長

これより、議長を務める。

協議・調整事項「(1) 瑞浪市のいじめの現状と対策について」について、事務局に説明を求める。

(9 : 35)

■協議・調整事項(1) 瑞浪市のいじめの現状と対策について

○事務局次長

協議・調整事項(1)について、資料により説明。

○市長

本市では、過去に痛ましい事案があった。過去の教訓を忘れず、二度と起きないようにしなくてはならないと思う。

○教育長

過去を教訓に、事にあたっている。「本人がいじめだと感じたらいじめである」という認識でいじめ問題に取り組んでいる。資料7ページの「いじめ防止三原則」にあるように、教師が正面から向き合うことが大切だ。担任一人で対応するのではなく、早い段階で学校全体で情報共有することが、早期解決につながる。

○市長

教員同士でも相談しやすい雰囲気作りが必要ではないだろうか。

○教育長

組織的に対応していくことが重要だ。担任は自分で解決したいとの意識が働きやすい。

○市長

三原則を実践できるようにすれば、早期解決ができる。

○加藤教育委員（以下、加藤委員とする）

保護者に「瑞浪市いじめ防止基本方針」の認知はされているか。

○事務局次長

各校において、学校版を作成しホームページやPTA総会で伝えている。

○加藤委員

教育委員会事務局では、各学校が策定しているものの内容は把握しているか。

○教育長

把握している。

○市長

保護者にもいじめ防止基本方針は認識していただかななくてはならない。家庭の理解は不可欠だ。不登校が、全国平均より高いことが気になる。

○教育長

不登校は一部の学校に多い。不登校の原因は、学習、友達関係、家庭問題などが複合的に絡み合っている。

○市長

不登校対策、不登校防止基本方針も必要ではないか。こぶし教室は一生懸命取り組んでくれている。不登校について、祖父にあたる方から2件の相談を受けたことがあり、こぶし教室を紹介した。こぶし教室の世話になり、一人は無事に卒業し、もう一人は保健室登校で卒業したと、感謝の報告を受けた。そのうちの一人は、無事麗澤中学校に入学し、名前の呼び捨ての関係が心地よいと、喜んで通学しているということだ。

○教育長

不登校対策についても、根本的に考えてみる。

(10:00)

■協議・調整事項(2) 瑞浪市教職員の働き方改革プランについて

○山田教育委員（以下、山田委員とする）

協議・調整事項(2)について、資料により説明。

時間外勤務月80時間が、過労死ラインと言われている。本市でも10月を例に見ると、小学校で24%、中学校で33%が月80時間を超えている。

教育みずなみ1月号の巻頭言でも、東濃教育事務所教育支援課長が「働き方改革は教育現場の意識改革から」とのテーマで「無償で長時間勤務する＝よい先生」

という意識を改革し、業務の取捨選択をすることが必要だと述べておられた。長時間勤務を解消するには、自らの意識改革と行政による制度改革の2つが必要である。本市の働き方改革プランは、具体的な手段が盛り込まれており、よいものができたと思う。あとは、現場の実践次第だ。

小学校の学業支援員は25人で、定数ギリギリである。教員は有給休暇が取得しにくい。出張、休みの教員の後補充として、教員免許を持つ学業支援員を各校に配置し、授業をさせるようにしてはどうか。また、中学校では、部活動の顧問は任意とは言え、断れない。クラブの指導は学校から切り離し、瑞浪市で一つのクラブチームとして活動できるよう、総合型地域スポーツクラブを整備、推進し、クラブに対して公的支援をしてはどうか。

公的支援なしに受益者負担金だけで、スポーツクラブを運営するのは困難ではないか。本市にあるソフトテニスクラブに対して、現在、補助は行っていないか。

○市長

働き方改革は、国が力を入れている政策である。市長会では、本政策における医師の取り扱いが問題となっている。これまで地域医療は、医師の社会的使命感に支えられ成り立ってきた。ただでさえ医師が不足している中、働き方改革を医療分野にもそのまま導入すると、地域医療が成り立たなくなるとの懸念がある。

○教育長

長時間勤務の弊害として、教員のなり手が少なくなってきた。教職に魅力を感じる人が減り、教育学部も不人気である。採用試験の倍率も、小中学校ともに年々低下している。今の若者は、仕事のみならず、家族や趣味も大切にしたいと考えており、「献身的な教師像」という従来どおりの価値観に固執しては、なり手がなくなる。

○市長

妹は、小学校時代の担任にあこがれて教員になった。教職を魅力的にしなければならぬ。

○五嶋教育委員（以下、五嶋委員とする）

どういう人が教員を目指すか。例えば、優秀な若者が、私立の良い大学に入ったら、よい企業に就職し、地方大学に入ったら、公務員、教員、NTT、中部電力などに就職するというような傾向があるように思う。残業が少ないこと、社会的使命感があることなど、条件を整えなければ、若い人は来ない。

長時間勤務の内容はどのようなか。本当に80時間を減らすことはできないのか。例えば、教育現場でもこれまで手作業に頼っていた部分をAI化できる可能性はないか。トヨタ自動車の「カイゼン」など、民間企業の発想に学ぶ点もあるかもしれない。

○市長

学校にタブレットを導入するという一方で、教材プリントの印刷を省略できる

など、省力化が進むと期待している。「やらなくても済むことはやらない」など、学校内で相談して業務を見直すこと、また教育委員会はそれを支援することが大切だろう。県教育委員会が教員を増員してくれればよいが、それは困難であろう。山田委員の提案通りの方法で、学業支援員を活用することが可能なのかを確認していただきたい。

○教育長

人を増やすことが一番大切だ。教員の仕事の事務補助員を単独で雇用している市町もある。県内統一の学校事務統合支援ソフトは平成31年度に導入される予定である。

○市長

幼稚園では、懸案であった各教員にPCを配備し、各園に事務補助職員を配置した。

○教育長

幼稚園に事務職員が配置されたことで、園児に直接触れ合う時間が増え、園長や主任は大変喜んでいる。

○市長

働き方改革を「絵に描いた餅」としないよう小中学校についても、そういった取組みを検討していく必要がある。また、山田委員からの質問であるソフトテニスクラブに対する公的支援は、行っていない。会費で運営しているものと考ええる。

○山田委員

稲津町にあるNPO法人はいかがか。

○梅村企画政策課長

国県の補助制度はあるかと思うが、市単独でNPO法人に対して補助は行っていない。

○五嶋委員

総合型地域スポーツクラブとして認定を受けるには、複数の種目に対応できることなどの条件がある。

○市長

文部科学省の指示で、体育の授業で武道を取りあげる必要があるが、指導者の確保が難しい。本市は指導者の確保などの都合により、剣道を実施している。

○五嶋委員

柔道は、事故の懸念があるため採用が困難だと思われる。

○市長

留守番電話は、すぐに取り付けるよう進めてほしい。

○事務局次長

順次整備する。

○市長

学業支援員が、後補充として授業を行うという件については、検討してほしい。

○加藤委員

超過勤務の内容は把握しているか。今後、不登校対策に力を入れると、教員の負担は増えるのではないか。仕事の内容により対策が違ってくる。仕事の内容を精査して、ICT活用による合理化など、できるところから改善していただきたい。

○市長

改善をお願いする。

(10:37)

■協議・調整事項(3) 市内小学校の教育環境の整備について

○酒井教育総務課長

協議・調整事項(3)について、資料により説明。

○五嶋委員

株式会社エイ・ダブリュ瑞浪の起業により、人口動態が変わるであろう。市長部局と教育委員会事務局と情報交換をしていくことが大切だ。本市に居住する予定の人数や地区などを把握する必要がある。それらのデータを基に、教育環境の整備を早急に行う必要がある。政策的な内容となるが、例えば、陶地区への転入を推進し、陶小学校に子どもを入学させることができれば、陶小学校を維持できる。

○市長

エイ・ダブリュ瑞浪は、8月までに500人、10月までに250人を採用し、当面は750人態勢で社屋2棟を使い、操業する。その後、1、2年の内に250人を追加雇用し、将来的には第3棟も稼働させ、5、6年で1,200人程度の雇用を計画しているとのことだ。先方からは、随時、報告をいただいているが、それらの情報を基に先を見越した対策が必要だ。のんびりしていると間に合わない。小田、明世地区は確実に人口が増える。危機感を感じている。

○五嶋委員

500世帯分の空き室を用意する必要があるにもかかわらず、現状は60室しか提供可能な物件がなく、開発が必要だと聞いた。例えば、陶地区を対象にすることなどを検討したらどうか。

○市長

8月には500人がやってくる。本市にはファミリー向けのアパートは十分あるが、単身者用については、300室需要がある中、110室ほどしかない。土岐市もファミリー向け中心とのことで、単身者用はエイ・ダブリュ瑞浪が確保するとのことだ。幼少中の整備は、大変大きな問題なので、実態をつかむ努力をしている。

○加藤委員

学区再編が必要ではないか。

○市長

ありうる。今後、現実問題として、検討をお願いする可能性はある。

○教育長

学区の再編は簡単にはできない。小規模特任校制度を活用すれば、小田地区の子どもが釜戸小学校に通学することは可能である。

(10 : 55)

■その他

○市長

「瑞浪市合同企業説明会 オール瑞浪・企業フェス ガイドブック2018」により説明。

2月24日土曜日に産業振興センター瑞雲の間において、高校生を対象に「瑞浪市合同企業説明会 オール瑞浪・企業フェス」を開催し、32社に参加いただいた。

○その他、意見等なし

○市長

以上により、平成29年度第1回総合教育会議を終了する。

(11 : 00終了)